



Press release

SUPER GT RD.1 OKAYAMA CIRCUIT RACE REPORT

TEAM JLOC

88号車 マネパ ランボルギーニ GT3

織戸 学 / 平峰 一貴

87号車 クリスタルクロコ ランボルギーニ GT3

青木 孝行 / 山西 康司

公式予選

日付 : 2015年4月4日(土)

天候 : 曇り 路面 : Dry

予選結果 : 88号車 12位、87号車 18位

路面コンディションとマシンSetUpが噛み合わず

2015年の開幕、皆が期待を胸に始まった。

午前中の練習走行から、理解しにくいウェットコンディションに苦戦しタイムが伸びない。

午後からの予選はドライになった。88号車は混戦を避けスタートを遅らせたが、87号車はあえて直ぐにスタートしアタックの機会をうかがう。

88号車はQ1を11位で突破、87号車は中々波に乗れず18位。

Q2に挑んだ88号車だったがクリアラップが取れず、タイヤ温存の為無理せず12位で終了。

両車両とも路面コンディションに合わせきれず中盤手スタートとなったが、決勝での巻き返しに期待をしたい。

88号車 杉崎エンジニア コメント

3月中旬のテスト結果を踏まえ、ソフトコンパウンドタイヤでQFに向けてセッティングを進めて行った。

走り出しのバランスは少しリアグリップが不足していたが、ハードコンパウンドで5位となり予選上位を狙える状態であった。

Q1は平峰選手がハードコンパウンドでアタックしたが、午前中のグリップ感が感じられず11位、Q2は織戸選手がソフトコンパウンドでアタックしたが、コンディションに合わず12位となり、セットアップをコンディションに合わせ切れなかった。





88号車 織戸 学 コメント

今年、大きくはパートナーの変更から、始まります。平峰選手です。
 テストでも、平峰選手の走りやコメント、彼の良い部分や経験のない部分を理解し、トータルでのチームカアップをモットーに進めてい行くことをテーマにレースWEEKに入りました。
 土曜日の朝はあいにくの雨から始まり、中盤以降は直に路面も乾くという面白い展開に、、、ここがドラマの始まり岡山は、事前に合同テストに行き感触は掴んでおり、その確認がテーマです。
 路温、気温もかなり違い、事前に選んだソフト系のタイヤが、かなり弱さを感じ、ミディアム系のタイヤでも、少し弱さを感じるレベルであった。
 岡山の特徴でもある。
 フロントの新構造は、かなり良い方向に作用しているとも感じる。
 走行時間は平峰選手に少しでも多くのラップを刻んでもらえる事を考えた。
 予選では、Q1突破をテーマに、ミディアムタイヤで平峰選手に行ってもらおう。11番で突破。タイムは全車伸びていないようだ。
 原因は事前に行われたF4レースのダンロップタイヤのタイヤカスを拾ってしまう事のようなだ。
 Q2は僕がソフトタイヤで担当。これは決勝のタイヤマーキングをしている為、ミディアムを選ぶことが出来なかった。2周目にアタックを試みるも他車につまずき結局タイムは伸びず、ここでタイヤ温存の為に終了。
 明日は雨の予報だ。 良い方向に期待したい。

88号車 平峰 一貴 コメント

1回目のアタックで前の車両がコーナーリング中にミスをした影響で引っ掛かりペースダウン。そしてクリアな場所を見つけてもう一度アタック。タイヤが一番グリップするところは1回目のアタックだった。
 クリアな場所を見つけるだけでなく、他のマシンに誰が乗っているかも把握する必要がある。今後に向け勉強していきます。

87号車 市川エンジニア コメント

Q1を担当したのは青木選手。午前中の練習走行は路面が濡れてる状況からスタートした為、予定していたドライセットの確認は思ったより進まなかった。
 ただソフト傾向のタイヤよりも少し硬めのタイヤのほうがフィーリングがよいとのこと。
 予選に向けてのセット変更をしQ1に臨んだ。
 車のフィーリングは良かったものの思ったよりタイムが伸びず、1'29"44で予選18番手に留まった為Q2への進出は出来なかった。

87号車 青木 孝行 コメント

フリー走行から速さが足りない状態だった。エンジニアと話し合い車両の大幅なセット変更でチャレンジ。
 Q1は全体的にタイムを落とすライバル車が多い中、順調にタイムを更新できたのでチャレンジは成功したと思う。

87号車 山西 康司 コメント

事前に行われたテストを元に
 青木選手のアタックで力を出し切りましたが、18位。





決勝レース

日付 : 2015年4月5日(日)

天候 : 曇り 路面 : Wet

決勝結果 : 88号車 リタイヤ、87号車 20位

波乱の決勝が幕を開けた

決勝日、朝からかなりの雨で路面の水量が多い中、各車フリー走行を慎重に走り出した。

1周目からコースアウトするマシンが続き、5分過ぎに赤旗中断となったが、15分後には再開した。

決勝スタートの時、雨は止んでいたが、路面にはまだ雨水が残っておりタイヤチョイスが難しい。

各チームは今後の天候状況の変化に大変頭を悩ます。87号車はウェットタイヤでスタート。

88号車はスタート前ギリギリの時間にドライタイヤへ交換。路面が速く乾くと予想した結果だ。しかし乾きが悪く苦戦を強いられる。88号車は35周目にピットインするも、コース復帰後6周目に左フロントタイヤが外れるアクシデント発生。

そのままコースアウトしリタイヤとなった。

87号車は両ドライバーの粘りの走行によりジワジワとポジションUP。残り数周で12位まで上がっていったが、突然のスピンによりクラッシュしてしまう。辛うじてコース復帰し20位でチェッカーを受けた。

88号車 杉崎エンジニア コメント

決勝日朝のフリー走行ではウェットセットを確認し、満タンでもバランスはニュートラルで、決勝に向けてはコンディションに合わせてタイヤチョイスを待つことになった。

グリッドでタイヤチョイスをドライバーと検討していたが、土曜日の路面が乾く早さの実績からスタート後数ラップでドライになると予想し、スタート直前にドライタイヤに交換し勝負を掛けた。結果的にはウェットタイヤのラップタイムを逆転するまでに20ラップ程掛かり上位進出は出来なかった。

更にピット作業のミスからフロント左のホイールが脱落するトラブルによりリタイヤとなった。レース結果からすると、インターミディエイト(浅溝)でスタートして出来るだけピットインを遅らせ、2ndスティントはノーマルウェット(深溝)に交換する作戦がベストであったと思われる。

今回はレースウィークを通じて大きな車両トラブルの発生は無かったが、セットアップ、タイヤ選択、戦略、ピット作業の何れか一つでもミスをすれば結果が伴わないということが良く解る内容であった。

次回の富士レースに向けては、コンディション変化に対応できる車両のセットアップ準備、ピット作業の見直し及び練習の継続を実施し初戦でロスしたポイントを挽回して行く。





88号車 織戸 学 コメント

決勝レース。天気は微妙だ。

お昼頃に雨がやみはじめ、路面に水はほとんど無い状態です。

スタート直前までタイヤ選択に皆で悩み、勝負にでてみることに。

これは、昨日の予選の路面と同じ感じで、すぐに乾くだろうと。

45秒から60秒のタイム差で収まればいけるだろうと。

甘かった。

路面は一向に乾く気配もなく、ラップタイムは上げることができなかった。

それでもプッシュは続けたが、周回遅れになってしまう。

20ラップ目以降に、やっとウエットタイヤのタイムを逆転しはじめ、少しずつ挽回を始めたが、

30ラップ以降にまた雨が降り始め、35ラップ頃にピットイン。

ドライバーチェンジ、タイヤを深溝レインに変更し、ピットアウト。

平峰選手にとって、初のレギュラーステント。

とにかく多くの経験を積んでもらいたい。

もともと持っている速さに経験をプラスするには、走るしか無い。

しかし、無情にもモニターから写し出された映像は、タイヤが外れてストップするシーンだった。

序盤の遅れから、ポイントを取る位置は難しかったかもしれないが、それでも絶対に諦めること

なくレースを進めていただけに、残念な結果です。

今後はこのようなミスも、チーム全体で絶対に無くし、もっともっと強いチームに変更していきたい。

次戦は、必ず現状での良い結果を出します。

ありがとうございます。

88号車 平峰 一貴 コメント

#88はギャンブルに出て、路面が乾くと予想しスリックでスタート

予想していた程、路面は乾かず20 lap頃からWet タイヤを履くマシンのタイムと逆転する。

35lapを終えてピットイン、ドライバー交代

左腰ベルトの装着に手こずってしまった。もっと確認しながら乗り込む必要がある。

4lap目で左フロントタイヤが脱落してリタイヤ。

現実的にはトップグループに比べるとペースはまだ足りていませんが、レースでは何が起こるか

予測不可能ですし、自分たちが与えて頂いている状況の中で最善を尽くすということが自分た

ちの仕事だと思えますし、そうすれば必ず結果はついてくると確信しています。

第2戦富士では良い結果を残す為最善をつくします。応援宜しくお願いします！





87号車 市川エンジニア コメント

スタートドライバーは青木選手。

雨が降ったり止んだりコースコンディションが目まぐるしく変わる中、スタートタイヤを浅溝タイヤでスタート。

タイヤのチョイスは良かったものの、路面が乾き始めたせいかドライタイヤをチョイスした車のラップタイムが上がり始め、第2ドライバーでのドライタイヤの選択も考慮しながらピットインのタイミングを計っていた。

しかし、またしても雨模様。39LAP目に山西選手とドライバー交替をしタイヤはウェットをチョイス。

山西選手のウェットでの速さを期待して送りだしたもののワイパートラブルにより、フロントの視界を確保することが出来なかった。ラップタイムも思うように伸びず、途中コースアウトした為20番手でフィニッシュすることとなる。

厳しい状況下でのドライビングになって、ドライバーには誠に申し訳ないことをしたとチームで反省することとなった。

87号車 青木 孝行 コメント

難しい路面状況でスタート直前までタイヤ選択に悩んだが、ウォームアップでタイヤの熱の入りが遅かったのと湿度が高かったのでスリックではなく浅溝WETを選択した結果論だが上手くいきましたね。

レースは中盤までワイパーが視界の前で止まってしまうトラブルがありかなり視界不良で苦しんだが後半は改善されペースを改善できた。

最後、ストップしてしまったのは残念だが、次回の富士は車両にもスピードが戻れば楽しみになります。

87号車 山西 康司 コメント

雨の中、青木選手スタートでワイパートラブルながら、12位を走行。

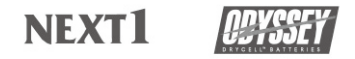
僕に交代してからも追い上げましたが徐々に視界は悪くなり、難しいドライビングでした。

スロー走行するGT-Rが黄旗振動区間にあらわれ、アウトウッドで加速に移る際エンジンが吹けず、何度かアクセルon,シフトアップを試していたところ突如スピン。残念ながらリタイア。

ポイント圏外での辛いレースウィークでしたが、スピードを取り戻せるよう青木選手と市川エンジニアと団結して頑張りたいと思います。

沢山の応援どうもありがとうございました！

今年も一年間応援してください！





監督 コメント

2015年の開幕戦。 今年は10年ぶりの改革の年。

新しいマシンが中盤から投入される。

ランボルギーニ社自身が新たに事業部を起こしレース車両を製作する、とても記念すべき年だ!!

我々、チームJLOCは、本社から世界中で最速のデリバリーを受ける為に、今シーズン毎戦エンジニアが本社より派遣される。 頑張らねば!!

ラウンド1・岡山の結果は大苦戦でしたが、雰囲気は明らかに昨年とは違う。

我々は一つのテーマを全員で掲げて戦う!!

”与えられた条件で最高の仕事をする”

スポンサーの皆様。 ファンの皆様。

ご期待ください。

